奈良支部主催行事 奈良女留学生に聞く「私の国の女性たち」(報告)

志垣 瞳

大学女性協会奈良支部では、2022年2月19日(土)13時30分よりオンラインで【奈良女子大学留学生に聞く「私の国の女性たち」】をテーマに講演会を開催した。

司会は中道支部長で、講演会のプログラムは次のとおりである。

- 13:30 趣旨説明 中道支部長
- 13:35 5人の留学生からのお話
- 14:30 参加者との交流(質疑応答や意見交換)
- 15:30 あいさつ 鈴木千鶴子文化交流委員会担当理事
- 15:40 閉会

2020年度奈良支部の活動としてコロナ禍における留学生支援のために「私の国の女性たち」のレポートを募集したところ、28名の応募があった。どのレポートもそれぞれのお国柄が表れた興味深いものであった。今年度は、現在奈良女子大学で学んでいる留学生の中から5名の方に、各国の女性たちについて紹介してもらい、発表を通してお互いの国への理解と交流を深める機会を作ることを趣旨とした企画である。

参加者は、他支部から9名、奈良支部から7名、奈良女子大学教員・学生・留学生あわせて5名、その他2名の合計23名であった。

お話をしてくださった留学生は次の5人である。

- コウ レイさん：【中国】文学部4回生
- グエン ゴック アインさん：【ベトナム】科目等履修生
- ヌル アミラ フスナ ビンティ オースマンさん：【マレーシア】文学部1回生
- ディミトロヴァ ラダ ラレヴァさん：【ブルガリア】生活環境学部1回生
- トレス ビアンチニ カミラさん：【アルゼンチン】博士後期課程2回生

開催前には各留学生の出身国の位置を示す世界地図、出身各国の教育制度やGGGIなどの概要を示す資料がZoomのお知らせとともに参加申込者に送付された。(資料参照)

レイさんの話の概要：出身は山東省威海市。海沿いの街で空気が一番きれいで家庭料理は海鮮料理が多い。中国の家族事情は「核家族が多い、子どものために自分の全てを尽くす、子どもができると夫か妻の母親に預けて共働を続ける」等。現代女性の考え方の特徴は結婚して子どもを産むのを恐れていること。その理由は夫婦2人で4人の親と子どもの世話をしなければならない、義理の母との関係が心配、夫に対する自信のなさ、自分の体のスタイルなどが気になる、子どもに全力を尽くすより自己実現を重視したい、家を買うための住宅ローンの返済に困る、子どもの教育費が高い(住宅・学校の選択、習い事等)などである。最近では母親になるより、自分は一人の女性として自己実現をし、社会で輝いていきたいという考え方が増えてきた。その考え方を特徴づける新しい言葉が「ディンクス(DINKs)」で、「共働きで子どもを意識的に作らない、持たない夫婦、またその生活観のことをさす」という意である。

アインさんの話の概要：数千年の歴史を誇るベトナムの優れた伝統産業や食文化、発展する経済状況などの紹介に続いて、建国の歴史において勇敢で不屈の精神で活躍した代表的な女性3名と現代社会で活躍が著しい女性が紹介された。具体的には、フランスで処刑された「赤い大地の英雄」ヴォー・ティ・サウ、「アオザイの闘士」と呼ばれ、ベトナム戦争の終結に向けたパリ平和会談にベトナム共和臨時革命政府の外務大臣として出席したグエン・ティ・ビン女史、14人もの家族を戦場に送りながら家につくった秘密地下トンネルを通して何百人もの戦士たちを救い、ベトナム英雄の母と呼ばれたMe Thu、2019年に米経済誌フォーブスが発表した「アジアで最も影響力のある女性トップ25」に選ばれた格安航空会社ベトジェットエアの社長グエン・ティ・フオン・タオ氏の4名である。4名の勇敢な生き方や活躍ぶりを通して、たとえ時代が変わり、ライフスタイルが様々に変化したとしても、ベトナム女性はベトナムらしい独特の伝統文化的美徳を継承しながら国際社会で積極的に活躍しようと心がけ、それを達成できるように精一杯頑張っているとお話であった。

アミラさんの話の概要：マレーシアは多民族国家であり、人口3270万人中マレー系が70%、中華系が22.5%、インド系が6.5%である。男女の比率は男性が52.3%、女性が47.7%。マレーシアにおける男女の入学率は高校では男性89.2%、女性94.2%であり、大学では男性37.8%、女性50.3%である。いずれも男性の方が低く、男性は早く仕事をした方がよいという考え方が多い。大学（学部）の学生に占める女性の割合は教育学部では女性が70%で男性が30%、理学部では女性が64%で男性が36%、社会学部では女性が66%で男性が34%であり、工学部では女性が42%で男性が58%であった。工学部以外では女性の割合が男性より高い。男性は工学部に向いていると考える人が多い。マレーシアの大学生の男性と女性の性格的な特性として、女性は将来自分がやりたいことをよく考えて、一生懸命に勉強するのに対し、男性は家族を養うために働く義務があるという考え方が強いために早く仕事に就きたいと考える人が多く、ここに男女の性格や目的観の違いが表れているのではないかと思われる。

ラダさんの話の概要：ブルガリアの2017年における男女平等インデックスは58.8%である。EUの平均値67.4%に比べると低く、男女平等には至っていない現状である。ブルガリアの女性の状況を職業、経済、学歴、健康、力、家事などの視点から見ると、まず職業では就職率は68%、うちパートタイムは3%で女性の労働時間は40時間（男性は41時間）。経済面ではブルガリアは貧困と格差が拡大し、EUでは2番目に低い。女性の収入は男性より14%低く、無教育の場合は28%も低い。高等教育を受ける割合は女性が26%、男性が18%であり、各分野における男女の集中度は不均衡。家事の時間はEU圏では最下位で、「毎日家族の世話をする」は女性が93%に対し、男性は72%。「毎日1時間以上料理や家事をする」は女性が73%に対し、男性は13%。「家庭外でのスポーツ・文化・レジャー活動に参加する」は女性が12%に対し、男性が20%であった。ブルガリア女性は気質がおおらか、簡明直截、男性には男らしさを求める、表情が非常に豊か、外見を大変に気にする、積極的で気性が激しいなどの特質を持っている。

カミラさんの話の概要：アルゼンチンの政界で活躍する二人の女性（エバ・ペロン “エビタ” とクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル）と 2015 年から始まったフェミニズム運動の紹介が主なお話であった。エビタは女優から軍人ペロンと結婚し、のちに大統領夫人となった人。「子どもが第一」がモットーで貧しい人々を救うことに努め、労働者から愛されたファーストレディである。クリスティーナは故大統領の妻で 2 回議員に当選し、2 回大統領に選出され、現在は副大統領として活躍するトップレディである。二人の共通点は優れた演説能力を持つ、非常に重要な政治家の妻である、アルゼンチンの政治史において著名な人物であるなどである。近年では 2015 年から始まった「ニ・ウナ・メノス」というフェミニズム運動が盛んである。別名「娘さん革命」といい、アルゼンチン社会で大きな問題となっている女性の殺害に対して戦う女性運動で、運動のモットーには「決定できるための義務性教育」「中絶しないための避妊薬」「死なないための合法で自由な中絶」などもあげられている。

5 人のお話が続いて行われた参加者との交流では結婚観や子供の育て方、日本の良いところ・悪いところ、日本人と自国の学生の授業態度の違いなどの質問に対して活発な意見交換があり、異文化を知るいい機会となった。特に中国で若い世代に広がる新しい言葉「ディンクス」はフロアで興味を感じる人が多く、レイさんからは「中国では一人っ子政策が長年続いたが、今日では政府は 3 人くらい産んでほしいと言っている。でも若者はそんなのムリと言って拒否する人が多くみられる。『ディンクス』という考え方にはこのような背景もある」という現状が語られた。そのほか、「日本の『空気を読む』文化や『配慮』文化はなかなか理解が難しく、日本人の友人づくりや深いお付き合いをすることは大変だ」「距離を取るという文化はお互いに自由な時間や空間を与えたりストレスを与えないようにする点ではよいと思うが、他国出身者にとっては『私を嫌っているのかな』と感じたり、寂しいとも思うし、適切な距離感を取ることに慣れるのは難しい」「日本には本音と建前があって、空気を読むので、自分の意見は中々言わず、目立ちたがらない。」「マレーシアにも建前はあるが、空気は読みやすい。日本の方が読みにくい。」「日本人は授業中に手を挙げて質問をしない。」「マレーシアでは 21 世紀になって自由に意見を述べることを進める教育方針が取り入れられるようになった。」などたくさんの意見が出た。最後に将来の抱負を語ってもらったが、できれば日本で専門を生かした仕事がしたいという希望が多く見られ、終始和やかで本音での交流ができた。